



Title	言語文化学 Vol.23 編集後記
Author(s)	植田, 晃次
Citation	大阪大学言語文化学. 2014, 23, p. 100-100
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77762
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

『言語文化学』第23号をお届けいたします。今号には論文16編、書評1編の応募があり、実際に提出されたのは論文13編でした。厳正な審査を経て、最終的に論文6編を掲載することになりました。ご多忙中にも拘らず査読をご快諾下さった先生方には、この場をお借りして衷心より感謝申し上げます。

また、学会活動のもうひとつの柱として、例年通り2度の研究発表会を開催しました。一昨年度より、春・秋ともに言語社会学会との合同大会となっています。箕面キャンパスで開催された第43回大会（春季大会、6月27日）では、今年度も言語社会学会のみなさまに準備・運営から懇親会に至るまで、細やかなご配慮をいただきました。言語文化学会から5名、言語社会学会から6名、合計11名が3会場に分かれて研究成果を発表しました。第44回大会（秋季大会）は豊中キャンパスで10月24日に開催し、言語文化学会から4名、言語社会学会から11名、合計15名が4会場に分かれて研究成果を発表しました。4月に新装開店した生協4階食堂での懇親会にも多数ご参加いただき盛会となりました。

学会運営については、本年度は、井元秀剛先生（学会誌前半）、植田晃次（委員長）、小川敦先生（書記）、小門典夫先生（学会誌後半）、小口一郎先生（秋の学会運営）、田畑智司先生（春の学会運営）、中村静先生（事務局）、山本佳樹先生（副委員長）の8名の教員委員（五十音順）、および、木山直毅さん、張若星さん、田玥さん、中尾朋子さん、潘寧さんの5名の院生委員（五十音順）から成る、総勢13名の委員が担当しました。昨年度に引き続き、とりわけ、助教の中村先生には様々な点でたいへんお世話になりました。学会運営に伴う実務上の煩雑な業務に黙々と対処していただくことがなければ学会の円滑な運営は不可能でした。会員のみなさまには、今後も大会や本誌に積極にご参加下さるとともに、学会主担当者不在体制となって久しく、各委員が本務・本業の傍ら運営にあたらざるを得ない現状の中、ご発表・ご投稿の際の要項遵守や取り下げのご連絡といった基本的な約束事について、よりいっそうのご協力をお願い申し上げます。

本誌掲載の執筆要項の通り、次号から投稿書類・原稿等の電子データへの一本化を実施します。このような試みが本学会のいっそうの活性化の一助となれと思います。さらに、言語社会学会との合同研究発表会のような試みが、両学会の交流とともに、それぞれの特色の明確化へのさらなる一歩となることを期待します。

2014年2月

大阪大学言語文化学会委員長 植田晃次